カーリングの神様

本田望結
長澤樹　泉智奈津　白倉碧空／川口ゆりな
秋山ゆずき　山崎竜太郎　内浦純一
柄本明　六角精児　田中麗奈　高島礼子
監督：本木克英
主題歌：「Sweaty Smell」STU48（キングレコード）

ライバルはかつてのチームメイト!?
この町の想いを胸に一番輝く星になる！

11★8 FRI

製作統括：佐藤現二　エグゼクティブプロデューサー：岩城レイ子　プロデューサー：冷水成俊　神林夏樹　大久保喜秀
脚本：谷本佳織　音楽：Akiyoshi Yosuda　撮影：石黒康一　照明：田中雄哉　録音：杉村貴太郎　映像：林航太郎
編集：川瀬功（JSE）　助監督：石田和彦　プロダクションマネージャー：小松次郎　ラインプロデューサー：入交裕子
制作：テレビ朝日　文化工房　博報堂DYメディアパートナーズ　CB　朝日新聞社　BS朝日　長野朝日放送　メ～テレ
制作プロダクション：松竹撮影所　製作幹事：文化工房　配給：ラビットハウス
特別協賛：ミネベアミツミ MinebeaMitsumi　協賛：フルタクリニック　明治　カーネクスト　特別協力：勝代田町　あさぎハイランドスポーツクラブ
©2024「カーリングの神様」製作委員会

長野県勝代田町
本州最古のカーリング場のある町で育った少女たちが、国際大会出場に挑む

日本アカデミー賞受賞監督とフレッシュ&豪華キャストで贈る

“ヒューマン青春エンタメ作品”に胸が熱くなる。

コロナ禍で思い出が作れなかった若者たちが、青春を取り戻そうとする姿を描いた作品。主演の本田望結に、川口ゆりな、長澤樹、泉智奈津、白倉碧空ら注目の若手俳優が加わり、プロの猛特訓を受け、高レベルのカーリング競技シーンにも挑んだ！

本作では高島礼子、柄本明、田中麗奈、六角精児、秋山ゆずきなど、多彩で豪華なキャスト陣が脇を固める。

監督の本木克英は、『超高速！参勤交代』〈14〉、『空飛ぶタイヤ』〈18〉で2度、日本アカデミー賞優秀監督賞を受賞。自らもカーリングを体験し、その難しさを実感しつつ若手俳優たちとともに感動の物語を創り上げている。

少女たちの想いが奇跡を起こす!?
青春スポーツ映画の新たな傑作が誕生!

本州最古のカーリング場がある御代田に暮らす香澄（かすみ）は、幼馴染み4人で結成した〈みよステラ〉チームで小学校時代に優勝経験もある。しかしその後チームは解散、香澄はくすぶる日々を送っていた。そんな折、地元で開催されるカーリング国際大会エキシビジョンにエントリーすることを思い立ち、みよステラの仲間に声をかける。しかしその誘いに乗らなかったのが隣町・軽井沢チームに移籍した舞（まい）。なんとライバルとしてみよステラに立ちはだかる。舞の代わりに東京からの転校生、実乃梨（みのり）がチームに加わるも、戦力としては未知数。

カーリングに勝つにはチームワークが大切という〈みよステラ〉と、
個人の技術さえ向上すれば勝てると考える〈軽井沢EC〉が対戦。
カーリングの神様はどちらに味方するのか――。

［予告編に出てくるカーリング用語］

「イエス！」★ブラシで強く掃いて！

「クリーン」★軽めに掃いて！（髪の毛1本でも氷上に落ちているとストーンの軌道が変わってしまうという繊細な競技。小さなゴミを掃き出す意味があります。）

2024｜1:1.85ビスタビジョン｜5.1chサラウンド｜99分｜G

（舞台となったカーリング場で国際大会開催！）

11★8 FRI 全国公開!

（予告編、映画館情報はここで！）

イントロダクション

《2,800 文字版》
洋の東西を問わず、映画はあまたのスポーツを題材にしてきました。ボクシング、野球に始まり、マラソンをはじめとする陸上競技からバスケットやラグビー、テニスに卓球、そしてプロレスまでありとあらゆるスポーツが映画になりました。
実際の試合や TV の中継ではありえないカメラアングルや主観的な時間経過、そして心象的な音響などを駆使して、スポーツの興奮を映画はそのテクニックとエンタメ性で、さらに加速させました。
さらに重要なのは観客の心を奪うストーリー展開です。その王道とも言えるのが主人公の挫折と再生、そして仲間との衝突と和解です。

今回のスポーツ題材は、北京 2022 冬季オリンピックで日本代表の女子チームが銀メダルに輝いたのをきっかけに、一躍ブームとなった女子カーリングです。2022～23 年の年末年始には、長野県御代田町（みよたまち）において、カーリングの国際大会「ワールドカーリングツアー ニューイヤーカーリング in 御代田 2023」が初開催され、軽井沢に程近い風光明媚な御代田町に、カナダやドイツ、北海道など、国内外から世界トップレベルのカーリング選手たちが一挙集結して、予選、準決勝、決勝の模様が、正月にテレビ中継されました。その熱戦の舞台となったのが、長野オリンピック（1998 年開催）を前に町の有志らが倉庫だった建物を手づくりで改装して 1995 年に完成させたという「カーリングホールみよた」なのです。現役の屋内カーリング場としては国内で最古級の歴史があり、その製氷技術は世界トップレベルと評価されています。そして、大相撲の“砂かぶり席”さながら至近距離から有名選手の臨場感あふれるプレーが見られるということで、カーリング通にとっては、たまらない場所として知られています。一方、オープンから四半世紀が経ち、老朽化も目立ち始めていることも否めません。

そんな折、前述のカーリングの国際大会のテレビ中継に携わり、カーリングや御代田町について、知れば知るほど興味を持ったプロデューサーの発案で、この地を舞台としたオリジナル映画の企画が立ち上がりました。実現に向けて、地元の関係者の協力を得て、急加速で準備がはじまります。それは、2023 年～2024 年に行われる第 2 回の国際大会の開催前後に、撮影するというものでした。
そこに、ストーリーテリングの名手として知られる映画監督・本木克英が名乗りを上げ、彼のもと、若手からベテランまで個性豊かなキャストが集まり、カーリングに青春を掛ける女子高生を主人公とした映画の撮影が、「カーリングホールみよた」や御代田町に実在する企業・施設で、そのまま実名で撮影されることのなったのです。
その映画こそ、11 月 8 日（金）に公開となる『カーリングの神様』です。

『カーリングの神様』の主人公たちが暮らすのは、ここ御代田町。カーリングの聖地であるこの町で育った少女たちが小学生の時にカーリングチーム“みよステラ”を結成し、大会での優勝を成し遂げ、一躍強豪チームとなってから 4 年後、物語は始まります。
　主人公の香澄（かすみ／本田望結）はかつての栄光とはかけ離れた日々を送っていました。コロナ禍で思うような活動ができず、主戦場の「カーリングホールみよた」も老朽化が進み、“みよステラ”の活躍に

沸いた町はひっそりとして、カーリング熱はどこへやら。

　チームメイトだった優芽（ゆめ／泉 智奈津）と沙帆（さほ／白倉碧空）とは相変わらず仲は良いのですが、もうカーリングのことは話題にもなりません。その中でただ一人、舞（まい／川口ゆりな）は近代的設備の整ったカーリング場が出来た軽井沢のチームへと転籍し、エースとして活躍しています。

　香澄たちの物語が再び動き出したのは、カーリングの国際大会が御代田町で開催されるという一報からでした。しかもその大会では本大会に出場する強豪チームとアマチュアチームが対戦するエキジビション・マッチが組まれるというのです。“みよステラ”を復活させて、「オリンピックにも出場するような強豪チームが参加する大会のエキシビションマッチに出場したい！」――これで、地元がただ開催地になっただけでなく、もう一度カーリングで熱気をもたらすことができると香澄は考えたのです。

さっそく香澄は優芽と沙帆に提案して、賛成を取り付けたのですが、問題は山積みです。
　舞に、もう一度チームに戻ってくれるよう誘ったものの、聞く耳を持たないばかりか、ライバルとして“みよステラ”の前に立ちはだかります。舞の代わりに東京からの転校生、実乃梨（みのり／長澤 樹）がチームに入ったのですが、全くの素人で戦力となる目途は全く立ちません。チームを成長させるために不可欠なコーチを、地元の有力企業ミネベアミツミに勤めるかつての名選手（鈴木あゆみ／秋山ゆずき）に頼みにいっても、カーリングとは縁を切ったと断られます。一方、「カーリングホールみよた」は施設上の問題点を指摘され、大会運営に十分でないとの理由で、軽井沢に開催地を奪われそうになってしまいます。
　そして香澄は、ポジションをめぐって優芽と口論になり、チームは空中分解してしまいます。
　四面楚歌の香澄は苦悩します。“みよステラ”ははたしてどうなってしまうのでしょうか…。

大きな壁にぶつかりながらも、子どもの頃の純粋な気持ちを思い出すことで、仲間と一緒に熱中する喜びを噛みしめる女子高校生たちの姿をみずみずしく描いた本作。監督を務めるのは、『超高速！参勤交代』（14）でブルーリボン賞作品賞、日本アカデミー賞優秀監督賞に輝き、『空飛ぶタイヤ』（18）で日本アカデミー賞優秀監督賞を受賞。『大コメ騒動』（21）や、池井戸潤原作を映画化した『シャイロックの子供たち』（23）などでも話題を集める、本木克英。本田望結を主演に、川口ゆりな、長澤樹、泉智奈津、白倉碧空、といった注目の若手俳優が女子高生役を演じ、カーリングに初挑戦。さらに、秋山ゆずきがコーチ役を務め、高島礼子、柄本明、田中麗奈、六角精児、など、多彩で豪華なベテランキャスト陣がガッチリと脇を固めるなか、実在するプロカーリングチームの女子選手や地元住民らも一体となり、撮影が敢行されました。『大コメ騒動』の谷本佳織による完全オリジナル脚本でありながら、セミドキュメンタリー的な要素もふんだんに盛り込まれ、「龍神」など地元の風物詩や人情味ある土地柄も伝わる“ヒューマン青春エンタメ作品”として、スポーツ題材のピュアでストレートな映画としても、　見事な仕上がりになっています。
コロナ禍で何も思い出が作れなかった若者たちが、青春を取り戻そうとする姿に、胸が熱くなること必至です。

《510 文字／短縮版》
日本アカデミー賞受賞監督とフレッシュ＆豪華キャストで贈る、本州最古のカーリング場を舞台にした“ヒューマン青春エンタメ作品” に胸が熱くなる。

大きな壁にぶつかりながらも、仲間と一緒に熱中し、喜びを噛みしめる女子高校生たちの姿を描いた本作。
本田望結を主演に、川口ゆりな、長澤樹、泉智奈津、白倉碧空、といった注目の若手俳優が、カーリングのプロの猛特訓を受け、役作りに挑戦。さらに、高島礼子、柄本明、田中麗奈、六角精児、など、多彩で豪華なキャスト陣が脇を固める。完全オリジナル脚本でありながら、セミドキュメンタリー的な要素もふんだんに盛り込まれリアリティ溢れる感動の“ヒューマン青春エンタメ作品”に仕上がった。
コロナ禍で思い出が作れなかった若者たちが、青春を取り戻そうとする姿に、胸が熱くなる！

監督を務めるのは、『超高速！参勤交代』（14）でブルーリボン賞作品賞、日本アカデミー賞優秀監督賞に輝き、『空飛ぶタイヤ』（18）で日本アカデミー賞優秀監督賞を受賞。池井戸潤原作を映画化した『シャイロックの子供たち』（23）などストーリーテリングの名手、本木克英が務め、若手俳優たちとともに感動の物語を創り上げた。

あらすじ

《2,800 文字版／最後まで》
風光明媚な小さな町、長野県御代田町。かつて「地元最強」と脚光を浴びていた小学生女子カーリングチーム「みよステラ」だが、メンバーの一人が軽井沢の強豪チームに移籍して解散。高校生になった香澄は、その後もカーリングを続けていたものの長らくくすぶっていた。

そんな折、御代田町でカーリングの国際大会「ワールドカーリングツアージャパン ニューイヤーカーリング」が初開催。「地元を盛り上げたい」と考えた香澄は、カーリングの有名選手と対戦できるエキシビションマッチに「『みよステラ』で出場しよう！」と思い立つ。

早速「みよステラ」を復活させるべく、解散以降カーリングから遠ざかっていた元メンバーの優芽と沙帆に声を掛け、沙帆の提案で、今は軽井沢の強豪チームで活躍する舞の元へと向かう。だが、気の強い優芽が勝気な舞を挑発。“売り言葉に買い言葉”で二人は口論に……。「大会の目玉チームとして出場オファーされているから無理」と舞に一蹴されてしまう。香澄は「舞が無理なら、諦めるしか……」と弱気になるが、優芽は「舞をぶっ潰す！」と怒りが収まらない。香澄も「理由はともあれ優芽がやる気になったなら……」と、再び前を向く。

一方、両親の離婚を機に、母の生まれ故郷である御代田町に転校してきた 16 歳の実乃梨は、カーリングのプロチーム「ロコ・ソラーレ」の試合を YouTube で目にしたのをきっかけに、その面白さに引き込まれ、全く未経験者ではありながら「みよステラ」の練習を覗きにいく。

そしてそのまま新メンバーを探していた「みよステラ」に半ば強引に入部させられるが、当然ながら、即戦力というわけにはいかない。香澄は「短期間でチームを成長させるためには、優秀な指導者が不可欠」と、現在はミネベアミツミに勤務する先輩・あゆみの元を尋ねる。あゆみは、かつて御代田町の期待を背負ってプロチームで戦ったものの、結果を出せず、平昌オリンピックの最終予選で敗れたのを最後に、カーリングから完全に足を洗っていた。

香澄たちの申し出も一度はキッパリ断るが、カーリング界のレジェンドの恩師・小宮山から、「『みよステラ』は御代田の未来であり、町の人たちの希望。あゆみが果たせなかった夢を、彼女たちに託せ。それがお前の使命だ」と諭され、「みよステラ」のコーチを引き受ける。

実乃梨の筋の良さを見抜いたあゆみは、ポテンシャルに賭け、実乃梨を沙帆が担当していたサードのポジションに大抜擢。あゆみの采配に反発し香澄ともぶつかった優芽は、「辞める」と言い出し、「勝つことよりもチームワークを大切にしたい」と考える香澄も心が揺れる。

片や、実乃梨は母の伝手を頼って小宮山に個人指導を仰ぎ、メキメキとカーリングの腕をあげていく。そんな実乃梨の努力を目の当たりにした香澄は、舞の所属する軽井沢の強豪チームのコーチを務める兄・幹太のアドバイスを受け、どうするべきか自分の心に問いかける。

子どもの頃の純粋な気持ちを思い出し、夢に向かって奮闘する「みよステラ」のメンバーの情熱に心を動かされた御代田町の住人たちも、老朽化した施設の補修に手弁当で協力。一時は会場変更も危ぶまれたが、来年も御代田町で国際大会が開催されることが決定。それを祝して企画されたカーリング大会で、「みよステラ」は舞のチーム「軽井沢 EC」と対戦する。

点差を付けられ、メンバーにも諦めムードが漂う中、「大量得点のチャンスはある」と励ます、コーチのあゆみ。実乃梨は、「迷ったときは攻めろ」という小宮山の言葉を思い出す。「……狙おうよ、大量得点」「私がサードで良かったって思ってもらえるように、ちゃんと成功させるから」。実乃梨の思わぬ強気な発言に腹を決めた香澄は、攻めの試合を選択。逆転に成功し、強豪を相手に接戦を繰り広げていく。だが、「みよステラ」が一致団結するその裏で、必死に勝つことだけを優先してきた舞は、「軽井沢 EC」内で孤立していた――。

勝負を決する香澄のラスト投球に会場中の視線が集中する中、ストーンの軌道上に龍の形をした煙が一瞬立ち上り、跡形もなく消え失せる。その龍こそ、かつて「みよステラ」のコーチを務めていた香澄の父、太一が描いた「カーリングの神様」だった。ストーンは実乃梨が指示した場所へピタリと止まり、「みよステラ」が二点リード。会場中が驚きと歓声に包まれる。最終的には力及ばず敗れるも、全力を尽くし、すがすがしい気持ちで試合を終えた「みよステラ」のメンバーたち。試合後、会場を去ろうとする舞に香澄は「見た？」と声を掛け、戸惑いつつも「見た」とうなずく舞と、「いたね、カーリングの神様」と微笑み合う。

《641 文字／公式 HP 版》
少女たちの想いが奇跡を起こす!?
青春スポーツ映画の新たな傑作が誕生！

高校生の香澄（かすみ）は、本州最古のカーリング場がある軽井沢にほど近い風光明媚なこの町(御代田町)でカーリングと共に生きてきた。小学生時代には、幼馴染みで結成したチーム＜みよステラ＞で優勝経験もある。しかしその後チームは解散し、香澄はくすぶる日々を送っていた。そんな折、町は地元で初開催されるカーリングの国際大会に沸いていた。香澄は「オリンピックに出場するような強豪チームと対戦できる国際大会のエキシビションマッチに出るチャンス！」と再び情熱を燃やす。

さっそく香澄はチームメイトであった優芽（ゆめ）と沙帆（さほ）に声を掛け、みよステラを再結成することに。三人は、かつてのチームメイトであり、現在は強豪チーム＜軽井沢 EC＞に所属する舞（まい）へチームに戻ってくるよう誘いに出向く。しかし、舞は聞く耳を持たないばかりか、ライバルとして立ちはだかる。舞の代わりに東京からの転校生、実乃梨（ルビ：みのり）がチームに加わるも素人で戦力にならず、コーチ探しにも苦戦、カーリング場の老朽化のため開催地を軽井沢に奪われるかもしれない危機。さらに、チームの方針の違いで香澄と優芽が衝突し、チームは空中分解してしまう、、、

やがて、チームワークを掲げる＜みよステラ＞と洗練されたテクニックで君臨する＜軽井沢 EC＞はエキシビジョンマッチ出場をかけて対戦することに。果たして、町に伝わるカーリングの神様は現れるのか――。

本編制作背景

この映画は、年末年始に御代田町で実際に開催されている「国際カーリング大会」の付帯映画として企画がスタートしました。長野オリンピックに長野からカーリングチームを輩出したいと地元有志が集まり、カーリング場を作るところから始めました。３０年近く前のことです。それまで運送会社の倉庫として実際に使われていたトタン張りの倉庫を買い取り、氷を埋設する設備を配置してなんとか作ったカーリング場で子供から大人までチームを作り、必死に練習。残念ながら長野のチームがオリンピックにでることはできませんでしたが、地元のみんなで何とかしようという情熱とやる気は現代まで受け継がれています。やがて国際大会の誘致と実施に結び付き、それが今回の映画に描かれています。

映画の主人公は小学校時代、カーリングで優勝経験のある高校生です。隣町の軽井沢は通年の素晴らしいカーリング場があるのに対して、御代田は昔ながらの小さくて古いカーリング場があるだけ。しかも、優勝を分かち合ったチームの１人が、あろうことか軽井沢のチームに所属して活躍しています。それにひきかえ、残された３人は何もしないまま高校生活を送っているのです。そんな時に国際カーリング大会のエキシビジョンマッチで優勝すれば、世界の凄いチームと対戦できるかもしれない！という話がとびこんできます。かつての友達がいる軽井沢のライバルチームに勝たないと、国際大会にでられる権利は勝ち

取れません。でも、なんとか４人のチームを編成して、大会にチャレンジしようとする高校生たちの姿が描かれます。

この作品のみどころは、カーリングの競技シーンです。

監督も事前に自身でカーリングを体験し、いかに難しい競技かを実感しました。シューズの右足は滑り止めが、左足は氷の上をすべるように進むという左右まったく違う機能をもつシューズで、思った場所にストーンを置いてゆくという競技。氷上のチェスといわれる
作戦と技術が必要な上に、体幹がしっかりしていないと氷の上をあるくことすらままならないという問題。撮影に入る前は、顔と手元だけ撮影してストーンを投げるシーンやスイープ（ストーンの前をはくシーン）は実際の競技者の吹替で撮影するということも考慮しました。しかし、本木監督からは「この映画は競技シーンが作品の質を決める。だから絶対に俳優にやってもらう」と制作の準備が差し迫った時に告げられました。安易に流れる方向に意識が向いていたスタッフは、その気迫と意義に心打たれました。

それから俳優の特訓が始まります。サブリンク付きのスケート場を探して朝６時に新宿に集合し埼玉県上尾市にある「埼玉アイスアリーナ」のスケートリンクにでかけ、まずは歩くところから練習。それをやること１か月余り。さらに御代田で撮影にはいってからも、時間があればカーリングの特訓が続き、ついに全てのシーンを俳優自身が務めるところまで上達し、無事難しい競技シーンを撮影期間の最後に撮り終えることができました。

実は対戦相手の軽井沢チームには２人の現役カーリング選手が加わっています。こちらは、逆に初めての演技とは思えないほど、氷上はもとよりセリフを伴う芝居も素晴らしく、競技のシーンがより緊張感あるリアルな映像に仕上がっています。

また平均年齢６０代の地元シニアチームと対戦するシーンがあるのですが、あのチームも実際に活動している人達です。カーリングという競技はいくつになってもできるスポーツであることを実感いただけると思います。

今回は、御代田町と一部軽井沢のオールロケで、実際の建物、会社、駅もすべて実名で登場しています。浅間山のふもとに広がるのどかな町の風景と、そこを風を切って走る高校生の姿はまさに失われた昭和の日本の風景のようです。

スポーツに懸命に打ち込むすがすがしさ、友情、地元との絆、ある年齢の方にとっては無性に懐かしく、今の若い人にとっては衝撃の新鮮さを与える作品に仕上がっていると思います。

ところで映画のタイトルの「カーリングの神様」ですが、実はロコ・ソラーレの本橋麻里子代表理事が言った言葉がヒントになっています。

北京オリンピックで日本カーリング史上初の銀メダルを獲得したとき、本橋さんは準決勝のスイス戦を振り返り「カーリングの神様っているんだな」と発言しました。

チームが狙ったところに、いかに正確にストーンを置くかが勝敗に直結しますが、時にストーンが思いもよらぬ動きをしてそれが勝利を呼び寄せることがあります。

カーリングの神様は、誰の前に現れるのでしょうか。ぜひ作品をご覧になり、御自身でお確かめください。

プロダクションノート

準備中

カーリングの魅力と神様の居場所　　竹田聡一郎

カーリングの魅力は？

長年、カーリングを取材してきた。幾度となく聞かれた、説明に時間や文字数を要する質問だ。あくまで個人的な大別だが、3つの要素があると考えている。

ひとつはまずチームスポーツであること。それも4人で1チームを組むことが特徴的だ。4人という数字はチームスポーツとしてはミニマムの小隊であろう。ビジネスシーンや研究の分野におけるコミュニケーションや議論の下限人数も4人という説が強いらしいが、4人の意見を一致させ、あるいは食い違っても歩み寄りながらチームとして前に進まなければいけない。その過程とスピードがグループで差がある。特に若年層では顕著だ。

実在するカーリングチームのほとんどがそうであるように、本作『カーリングの神様』に登場する＜みよステラ＞と＜軽井沢 EC＞も幾度となくチームの成長とその歩幅について揺れ動く。「どんな手を使ってもオリンピックに行くから」、「私、知っているから。沙帆が頑張ってるの」などというセリフに個性が浮き上がるが、4人編成の若いチームが悩みながらどのように成熟していくかは見どころのひとつだろう。

動と静の混在も大きな魅力だ。カーリングでは頻繁にオープンな作戦会議が氷上で行われる。次のショットについて 4 選手がさかんに議論している姿はもうお馴染みの光景だろう。しかし直後、投げ手がハック（投石の足場となる蹴り台）に足をかけてからデリバリー（投石動作）を済ますまでの刹那、アイスは静寂に包まれる。その一瞬の沈黙を経て選手のラインコール（スイープの指示）でアイスに音が戻る。高校野球の金属バットしかり、ゴルフのインパクトしかり、スポーツには象徴的な音が存在する。本作ではストーン同士が当たる音を動静の転換として音響に用いていた。

また、動と静の対比という意味では、この幼馴染みのチーム＜みよステラ＞もみずみずしくも微笑ましく映えた。普段のトレーニングを女子高校生の年齢相応にかしましくこなしていく一方で、試合では緊張感と勝利への欲が日常を上回る。特に吹き替えなしで撮影された競技シーンでは主演の本田望結をはじめ、川口ゆりな、長澤樹、泉智奈津、白倉碧空ら若き俳優陣の表情の呼び起こし方が巧みだった。

最後はカーリングの特有の不確定要素と余白、語るべき部分と言い換えてもいいが、その幅の広さだ。

刻一刻と変わるアイスコンディション、石それぞれが持つ曲がりや滑りのクセ、2手3手先を読む戦術 e.t.c.……。「氷上のチェス」と呼ばれるスポーツではありながらチェスと決定的に違う点は、それら不確定な要素が絡み合いアイスの中では確固たる正着手や最適解が存在しない部分だ。「やっぱりテイクだったかもしれない」「こっちのラインのほうが投げやすいと思う」「相手がここに置いたらちょっと難しくなるね」、そんなセリフは実際の試合でも頻繁に聞こえてくる。正解のない面白さ、次のゲームへの継続性や再現性も備わっている。

さらに解釈を広げてみると、特に10代の競技活動においては部活動としてカーリングを選択すること、共に切磋琢磨できるチームメイトに寄り添うこと、競技を継続することやカーリングで将来を描くこと。そのこと自体が、余白でありまだまだマイナースポーツに分類されるカーリングの伸び代だ。

これを読む方が本作の鑑賞前なのか後なのか判断がつかないので詳細は控えるが、4 人で歩調を合わせて成長し、動と静が混在し、余白と議論の余地を多く残すスポーツ、カーリング。その特性と魅力を詰め込んだ本作だが、それを踏まえた上で香澄をはじめとした若きカーラーが信じる「カーリングの神様」は果たしてスクリーンに宿ったのだろうか。その答えは観る側にも委ねられることになりそうだ。

最後にコアなカーリングファンのために細かな注目ポイントを匂わせ紹介したい。本州最古のカーリング場がある御代田町を舞台としているが、「ロコ・ソラーレに会えるかも」とテンションが上がるシーンがありつつ、「軽井沢なんて金と知名度にモノを言わせて威張っているだけのつまんない街」とし「御代田はそのつまんない町のコバンザメ」と断じる台詞があるくらいだから、現実とのリンクがコアファンのツボにささるかもしれない。

本人役の美人解説者の華美なジャケット、歴史あるカーリング大会の冠スポンサーである電子機器部品のメーカー本社、ライバルチーム＜軽井沢 EC＞のフロントエンドにはあの選手やあの選手がいる。エンドロールには見慣れた名前も多数、流れてくる。ぜひ注目してみてほしい。

さて、カーリングは 2026 年のミラノ・コルティナダンペッツォ五輪に向けて加速していくが、その過程で重要な大会である今季 2024/25 シーズンの日本選手権は「横浜 BUNTAI」にて史上初の首都圏アリーナ開催の予定だ。

その試金石として、「カーリングホールみよた」では年末年始の恒例大会「ニューイヤーカーリング in 御代田 2025」が行われる。カーリングの神様はやはり御代田におわすのか、あるいは港町に顕現するのか、ひょっとしてイタリアで待ち構えてくれるのか。それは誰にも分からない。「みよステラ」をはじめ、各チームの物語はまだまだ始まったばかりなのだから。

出演者プロフィール

本田望結（ほんだ みゆ）／清水香澄（しみず かすみ）役

2004 年 6 月 1 日生まれ。京都府出身。
3 歳から芸能活動を始め、「家政婦のミタ」(11/NTV)への出演が話題になる。映画「ポプラの秋」(15/大森研一監督）にて初の映画主演など、数多くの映画、ドラマに出演する。
近年の出演作はドラマ「らんまん」(23/NHK)、「少年のアビス」(22/MBS)、「ばかやろうのキス」(22/NTV)、映画「それいけ！ゲートボールさくら組」(23/野田孝則監督）、「きさらぎ駅」(22/永江二朗監督）など。
フィギュアスケーターとしても活躍。

川口ゆりな（かわぐち ゆりな）／曽根原 舞（そねはら まい）役

1999 年 6 月 19 日生まれ。宮崎出身。
幼少期はゴルフ(ベストスコア８４)で鍛え、「第 14 回全日本国民的美少女コンテスト」（14）に出場し演技部門賞を受賞し活動を開始。「Girls Planet 999:少女祭典」（16）に出演。韓国から帰国後、雑誌「MORE」2022 年 4 月号より専属モデルに起用され、「TOKYO GIRLS COLLCTION」「Girls Award」などファッションイベント出演や多数の広告に起用される。
2022 年 3 月 21 日ユニバーサルミュージックから「Look At Me」でソロデビューを果たし「Cherish」(22)、「花束」(23)、「Cheeky Cheeky」(23)、「C.S.M.I.C Love」(23)をリリース。SNS 総フォロワー数が 100 万を超え、歌手・モデル・俳優として注目を集めている。

長澤樹（ながさわ いつき）／江藤実乃梨（えとう みのり）役

2005 年 10 月 24 日生まれ。静岡県出身。
2020 年公開の豊田利晃監督作「破壊の日」でスクリーンデビュー。主な出演は、映画「光を追いかけて」21/成田洋一監督)、「ハウ」(22/犬童一心監督）、「ちひろさん」（23/今泉力哉監督)、『愛のゆくえ』(24/宮嶋風花監督)、「BISHU～世界でいちばん優しい服～」(24/西川達郎監督）など。ドラマでは、時代劇「金と銀 あきない世傳」(23,24 /NHKBS)、「First Love 初恋」(22/Netflix)、「連続ドラマ W 両刃の斧」（22/WOWOW)、その他 J-WAVE ではラジオドラマ「BIT＆BOBS」(ライター 高崎卓馬）に 2021 年に 15 才で抜擢され現在もレギュラー出演中。CM に数多く出演し、日本生命、CCC マーケティンググループブランドムービーなどがある。そして「鈴乃屋」の 2024 年イメージキャラクターに就任した。

泉智奈津（いずみ ちなつ）／中澤優芽（なかざわ ゆめ）役

2005 年 6 月 8 日生まれ。大阪府出身。
幼少期より地元関西を拠点としてキッズモデルなどの活動を始める。中学校時代に ACTRESS INCUBATION 女優養成プロジェクトに参加し、舞台「ゲートシティの恋 2020」にひかり役として出演。15 歳で上京し、現事務所で芸能活動を開始。 主な出演作にドラマ「ひきこもり先生 2 」(22/NHK)。ストイックな一面とナイーブさで構成された無類の芝居好き女子である。

白倉碧空（しらくら あおい）／牛山沙帆（うしやま さほ）役

2006 年 8 月 10 日生まれ。大阪府出身。
趣味はカラオケ、小説執筆、筋トレ、お菓子作り、ギター、キックボクシングと多趣味な現役高校生。得意なスポーツはバスケットボール、ドッジボール。
主な出演作に「最高の教師　1 年後　私は生徒に■された」(23/NTV)、森村誠一ミステリースペシャル「終着駅シリーズ(38) 十月のチューリップ」(22/EX)。

高島礼子（たかしま れいこ）／植田貴美子（うえだ　きみこ）

1964 年生まれ、神奈川県出身。
88 年に CM に出演したのを契機に、テレビ時代劇『暴れん坊将軍Ⅲ』で本格的に俳優デビューする。93 年、初主演映画『さまよえる脳髄』で注目を集め、その後 96 年『陽炎』主演、99 年から『極道の妻たち』シリーズの 4 代目に抜擢され代表作となる。NHK では、放送 90 年大河ファンタジー『精霊の守り人』のトロガイ役を 2016～2018 年まで務める、22 年「善人長屋」、23 年「あきない世傳～金と銀」など、出演作多数。

柄本明（えもと あきら）／小宮山進（こみやま　すすむ）

1948 年 11 月 3 日生まれ。東京都出身。
1976 年に自身で劇団東京乾電池を旗揚げ。1998 年、「カンゾー先生」（今村昌平監督）で第 22 回日本アカデミー賞最優秀主演男優賞受賞。また 2010 年の李相日監督作「悪人」では第 34 回日本アカデミー賞助演男優賞を受賞した。近年の作品に、映画「ある船頭の話」（主演）（19/オダギリジョー監督)、「鬼平犯科帳 闘」(24/下智彦監督)、「まる」(24/荻上直子監督)、ドラマ「半沢直樹」(20/TBS)、「海の見える理髪店」（主演）（22/NHK)、舞台「てにあまる」(20)、「本日も休診」（主演）（21）などがある。2011 年紫綬褒章、2019 年旭日小綬章を受勲。

田中麗奈（たなか れな）／江藤真紀（えとう　まき）

1980 年 5 月 22 日生まれ。福岡県出身。
1998 年に映画「がんばっていきまっしょい」で映画初主演を務め、日本アカデミー賞新人俳優賞など多数受賞。その後、映画「はつ恋」(99/篠原哲雄監督)、「幼な子われらに生まれ」(17/三島有紀子監督）でも多数の女優賞を受賞。ドラマでは、「猟奇的な彼女」(08/TBS)、「激流～私を憶えていますか？～」（13/NHK)、「美しき罠～残花繚乱～」(15/TBS)、「愛おしくて」(16/NHK)、「真昼の悪魔」(17/THK)など。近年は、映画「福田村事件」(23/森達也監督)、「愛のゆくえ」(24/宮嶋風花監督)、ドラマ「神の子はつぶやく」(23/NHK)、「いちばんすきな花」(23/CX)、「ワンダーハッチ-空飛ぶ竜の島-」(23/ディズニープラス スター)、NHK 連続テレビ小説「ブギウギ」(24/NHK)、「VR おじさんの初恋」(24/NHK)などに出演。

六角精児（ろっかく せいじ）／土屋一郎（つちや　いちろう）

1962 年生まれ、兵庫県出身。
82 年、劇団「善人会議（現・扉座)」の旗揚げに参加。その後数多くの舞台、映画、ドラマに出演。ドラマ『相棒』シリーズの米沢守役が話題となり、『相棒シリーズ　鑑識・米沢守の事件簿』(09)で映画初主演。また音楽活動や NHK ラジオ『ふんわり』のパーソナリティを務めるなど多岐にわたって活躍中。近年の主な出演作に、映画『すばらしき世界』(21)、『ウェディング・ハイ』(22)、『ハケンアニメ！』(22)、『コンビニエンス・ストーリー』(22)、『仕掛人・藤枝梅安』(23)、『おいハンサム!!』(24)、ドラマ『エルピス -希望、あるいは災い-』(22)、『ガンニバル』(22)、『シッコウ!! ～犬と私と執行官～』(23)、舞台『隠し砦の三悪人』(23)、『破門フェデリコ ～くたばれ！十字軍～』(24)など。ミュージカル『レ・ミゼラブル』(24～25)の出演が控えている。

秋山ゆずき（あきやま ゆずき）／鈴木あゆみ（すずき　あゆみ）

1993 年 4 月 14 日、埼玉県出身。
モデル、舞台俳優など多彩な活動を経て、 ２０１７年に出演した映画『カメラを止めるな』で注目を集めると、数々のドラマ、映画、舞台作品で多彩な役柄を演じる。 ドラマ　テレビ東京『機捜２３５×強行犯係　樋口顕』(23)、日本テレビ『日本統一 関東編』(23)、NHK『正義の天秤 Season2』(23)、ABC テレビ『●●ちゃん』(23)　映画『成れの果て』(23)、『湯道』(23)などがある。 近作では舞台『ドレミの歌』(24)にて主演として出演を果たした。

山崎竜太郎（やまさき　りゅうたろう）／清水幹太（しみず　かんた）

2002 年生まれ、兵庫県出身。
子役として活躍したのち、短い休業を経て 2019 年より活動を再開するとオーディションで数々の映画、ドラマ、広告に抜擢される。代表作にドラマ『ガンダムビルドリアル』(21)、Netflix『恋愛バトルロワイヤル』(24)『ULTRAMAN』(23)、WOWOW『TOKYO VICE season2』(24)『OZU』(23)『ああ、ラブホテル』(23)『ソロモンの偽証』(21)、ABC『ムショぼけ』(21)、EX『未来への 10 カウント』(22)、映画『OUT』(23)『桜色の風が咲く』(22)『少女は卒業しない』(23)など。

内浦純一（うちうら　じゅんいち）／清水太一（しみず　たいち）

1975 年 4 月 7 日生まれ。富山県出身。
仲代達矢主宰の俳優養成所「無名塾」に入塾。約 1000 人の中から選抜された 5 人の 1 人としてデビュー。無名塾 25 周年記念公演「どん底」でデビュー。2007 年、性差を超えた愛を描いた東海テレビ制作の昼 ドラ「麗わしき鬼」ではゲイの青年・壱岐みちるを演じ、当時を振り返る 形で語るナレーションも担当、大きな話題となる。主な出演作品に映画「クライマーズハイ」(08/原田眞人監督)「大コメ騒動」(21/本木克英監督)「シェアの法則」(23/久万真路監督)。舞台、日穏「月の海」(16)「明日花」(15.20)「オミソ」(19.23)や吉川威史 presents「素晴らしい 1 日」(12)、MONO「なるべく派手な服を着る」(19)、兎座「脳天ハイマー」(23.24)などがある。また、地元富山での活動にも力を入れており、テレビのレギュラー出演や新聞への連載、舞台公演を毎年行うなど幅広く活躍中である。2024 年秋公開予定の映画「星より静かに」(君塚匠監督)では、主演を務める。

スタッフ・プロフィール

監督：本木克英

1963 年 12 月 6 日生まれ。富山県出身。
松竹に助監督として入社後、木下恵介、森崎東、勅使河原宏ら名監督に師事する。98 年『てなもんや商社』で監督デビュー。他に『釣りバカ日誌』シリーズ 11~13(00~02)、『鴨川ホルモー』(14)、『おかえり、はやぶさ』(12)『超高速！参勤交代』シリーズ（14・16)、『空飛ぶタイヤ』(18)、『居眠り磐音』(19)『大コメ騒動』(21)、『シャイロックの子供たち』(23) など。群集劇、人間ドラマに秀でた才能を発揮している。

脚本家：谷本佳織

兵庫県出身。
Los Angeles City College にて映画制作を学び帰国後は東映芸術職研修生の助監督として映画や TV ドラマ、教育映画など数々の現場に携わる。2012 年に短編映画『あかり』（脚本/監督）を完成。2017 年度京都映画企画市で時代劇企画『冬牡丹と人魚』（監督）が優秀賞を受賞。2018 年、初長編監督作『花は咲くか』が公開。その他脚本作に『JK☆ROCK』(19)『大コメ騒動』(21)がある。

主題歌 STU48「Sweet Smell」について

本作の主題歌は STU48 1st アルバム「懐かしい明日」TypeA に収録されている「Sweet Smell」となります。

主題歌 : STU48「Sweaty Smell」（キングレコード）
STU48 1st アルバム 「懐かしい明日」 収録　（2024 年 6 月 12 日（水）発売済み）

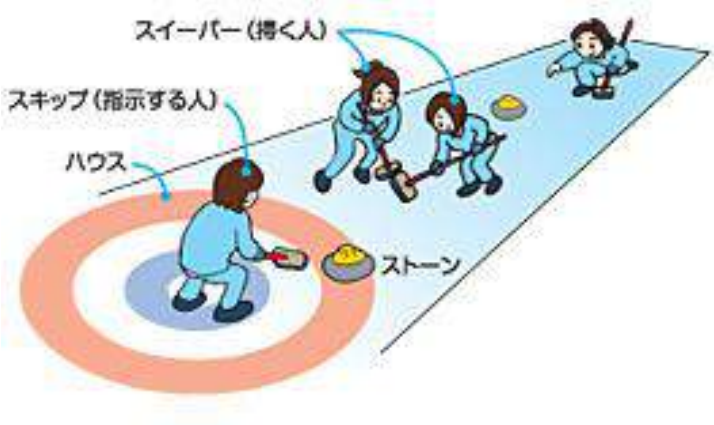
【STU48 プロフィール】

国内 6 番目の AKB48 姉妹グループとして 2017 年 3 月に誕生。
「瀬戸内」エリアを本拠地とし、「１つの海、７つの県」を中心に活動する AKB48 グループ初の広域アイドルグループ。
瀬戸内（SeToUchi）の頭文字から STU48（エスティーユー フォーティエイト）と命名される。
瀬戸内 7 県を巡業公演しながら、全国に「瀬戸内の声」を届ける活動とパフォーマンスを展開中。
この映画では、原田清花（はらださやか)、曽川咲葵（そがわさき）が、試合の応援席でも出演している。

これを知ればより本編が楽しめる！カーリングの基礎知識

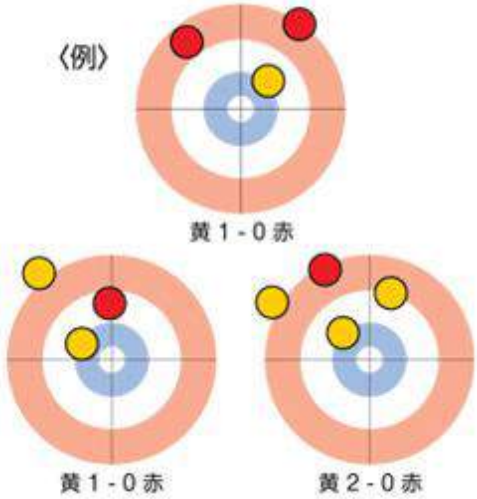
基本ルール

カーリングの競技の 1 チームは 4 人。ストーンは対戦する 2 チームで合計 16 個使用する。スキップ（主将）の指示によって、リード、セカンド、サード（スキップ投球時にはハウスで指示）、スキップ（全体の戦略指示を出す）の順で、相手チームと交互に一人 2 投ずつ投球します。



スキップと投球者以外は、投球されたストーンが止まる位置を伸ばすためにストーンの前をブラシで掃いてスイープを行うスイーパーとなります。

1 チーム 8 投、両チームで合計 16 投投げ終えた 1 区切りを 1 エンドといい、1 エンドごとに得点が決まります。得点は、ハウスと呼ばれる赤・青の二重丸のエリアの中心に一番近いストーンの内側に何個自分のチームのストーンがあるかによって決まります。1 ゲームは 8 エンドまたは 10 エンドから構成されます（本編では 8 エンド）。



参考　NPO 法人あさまハイランドスポーツクラブホームページ　カーリングとは
http://www.asamahlsportsclub.jp/about-curling

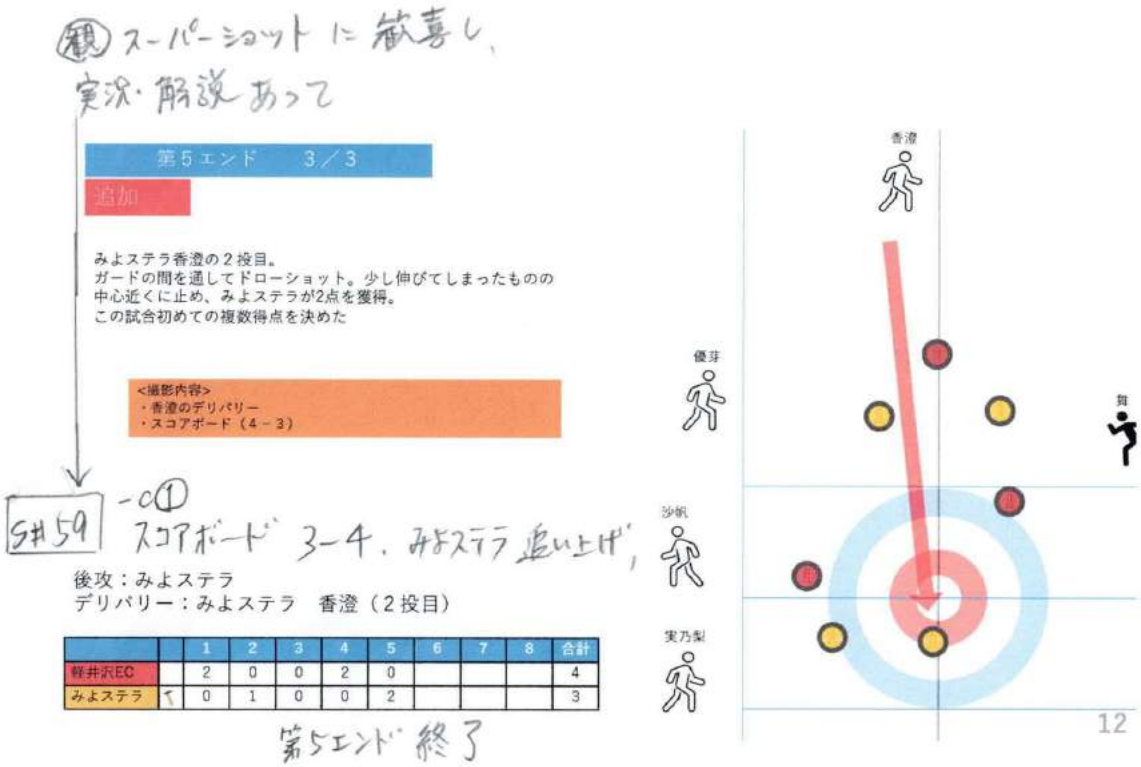
軽井沢 EC VS みよステラの激戦を振り返る（本木監督の演出メモから）

第 5 エンド

第 4 エンド終了時点で軽井沢 EC は 4 点、みよステラは 1 点。
逆転するために、コーチは大量得点を狙うことを提案します。サードの実乃梨を信じ、攻めの試合を選択した香澄。
シーンはサード実乃梨の投球です。

【第 5 エンド　サード実乃梨 1 投目前】

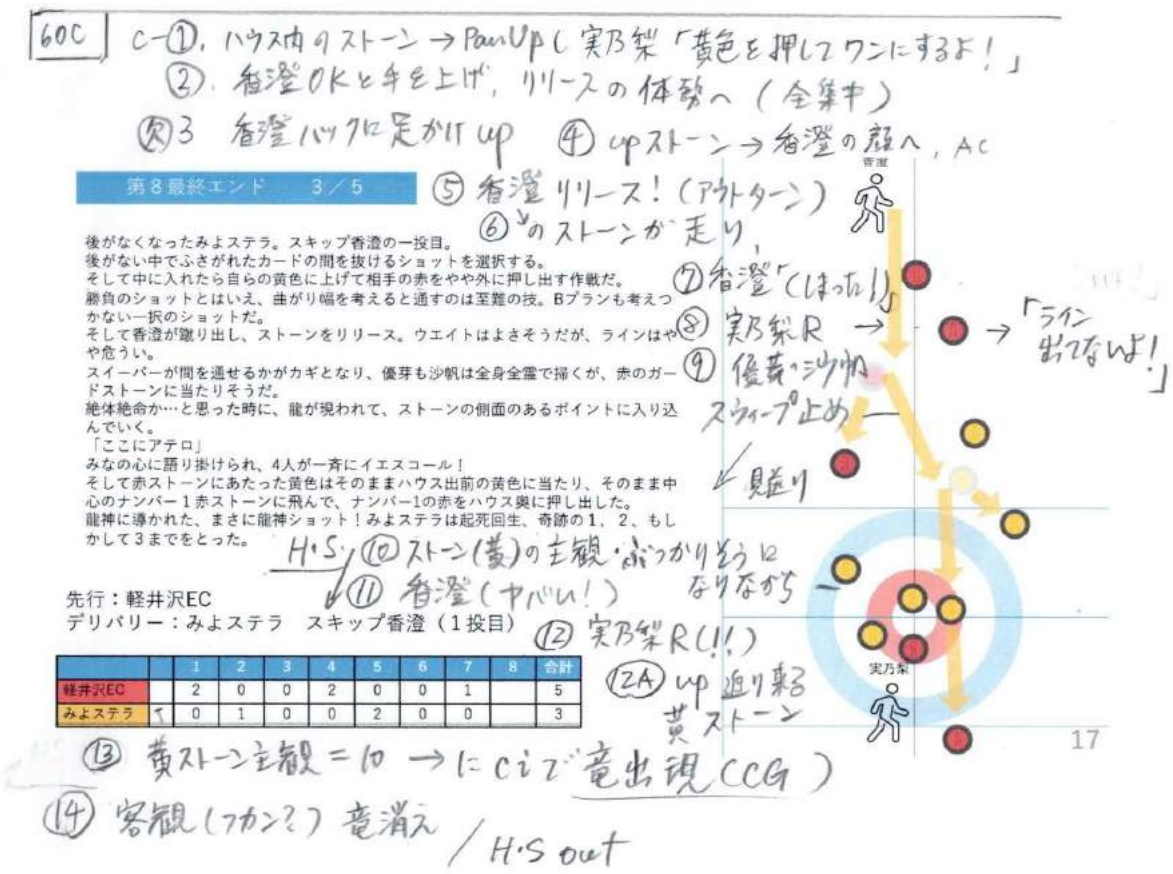
軽井沢 EC のガードが固く、ハウスの中への投球は難しい状況。
中を無理やり狙おうとするとかえってみよステラが不利になる可能性があります。



【第 5 エンド　サード実乃梨一投目】

しかしながら、攻めの試合を選択することにした香澄たちは、軽井沢 EC のハウス内のストーンを弾き出す投球を狙うことに。
無謀とも思われた実乃梨の投球でしたが、投球・スイープ共に見事なショットとなり、ハウス内の軽井沢 EC の二つのストーンを弾きだすことに成功します。

実乃梨による見事なショットが生まれた第５エンド、みよステラは２点を獲得し合計３点となり、合計４点の軽井沢 EC に迫ります。



【「カーリングホールみよた」と「あさまハイランドスポーツクラブ」について】

今から 30 年前の 1995 年に「長野からオリンピック選手を輩出したい」という一念でおよそ 50 名のカーラーたちが実現のために「知恵」「力」「資金」をモットーに手作りで実現した念願のカーリング施設です。手作りのリンク作業は 30 年経った現在も毎年会員の総力でハウス入れから完成させている貴重な施設です。
家を建てる時も、いろいろな方々の協力がなければ完成しません。「カーリングホールみよた」も多くの方たちの奇跡的とも思われる協力の中から生まれた作品です。
1995 年立ち上げ当初から今までこのクラブを支えてくださった多くの先人たちの熱い思いが続くカーリングホールです。
また 2008 年にはカーリングホールの存続と、更なる発展をしていくために「皆で創り、皆で実現する」将来ビジョンを達成するために「総合型地域スポーツクラブ　特定非営利活動法人（NPO 法人）あさまハイランドスポーツクラブ」を発足し、地域と密着した活動をしてまいりました。
カーリングホールの経営は、公共の施設ではなく独立した団体として運営しています。
欧米にあるクラブハウスの経営を目指し、ホールの運営資金は、各種会員の年会費、施設を利用していただいている学校関係をはじめカーリング体験利用の皆様、カーリングホールみよたの運営にご賛同いただいている多数の地元企業のスポンサー様のご支援を請け活動している団体となります。
プレミアム会員の年会費は「1 日 100 円の節約で年会費 36000 円」と決め 30 年間続く会費になります、施設利用料としてではなく、メンバーシップとして頂いており、それを基に「カーリングホールみよた」の施設維持管理やクラブの運営を行っています。
家は建てても「人が育っている」ことが肝心です。この御代田町のカーリング施設からカーリング競技を通じて人として総合的な魅力で世の中に立てる選手がこのホールから育つこと、建物は質素でも、どことなく風格が有り、皆の心の拠り所として、故郷に帰ってきたような暖かい雰囲気の漂う「カーリングホールみよた」が御代田町で存在し続け、いつか新しいホールの建設を目標に「地域のスポーツ文化振興」への想いを語り続けていきたい。

総合型地域スポーツ　特定非営利活動法人
あさまハイランドスポーツクラブ

本田望結
長澤樹　泉智奈津　白倉碧空　/ 川口ゆりな
秋山ゆずき　山崎竜太郎　内浦純一
柄本明　六角精児　田中麗奈　高島礼子

監督：本木克英
主題歌：「Sweaty Smell」STU48　キングレコード
製作統括：佐藤耕二　エグゼクティブプロデューサー：岩城レイ子　プロデユーサー：冲永成敬　神林夏樹　大久保昌秀
脚本：谷本佳織　音楽：Akiyoshi Yasuda　撮影：石黒康一　照明：田中雄哉　録音：杉村賢太郎　映像：林航太郎　編集：川瀬功（JSE）
助監督：石田和彦　プロダクションマネージャー：小松次郎　ラインプロデューサー：入交祥子
製作：テレビ朝日　文化工房　博報堂 DY メディアパートナーズ　CB　朝日新聞社　BS 朝日　長野朝日放送　メ～テレ
制作プロダクション：松竹撮影所　製作幹事：文化工房　配給：ラビットハウス
特別協賛：ミネベアミツミ　協賛：フルタクリニック　明治　カーネクスト　特別協力：御代田町　あさまハイランドスポーツクラブ
©2024「カーリングの神様」製作委員会

Website curlingnokamisama.com / Instagram：@curling.kamisama / X：@CurlingKamisama

◆パブリシティお問い合わせ：紙・電波：加藤（katsuyukikato0418@gmail.com / 090-8745-2536）
WEB： 村井（ takumi.murai@gmail.com / 090-9681-8549）
◆宣伝お問い合わせ：ラビットハウス 松岡（matsuoka@usaginoie.jp　070-8369-8483 ）
◆配給お問い合わせ：ラビットハウス 増田（masuda@usaginoie.jp　090-7710-9098 ）

11月8日(金)より 新宿ピカデリー他全国公開